※令和４年度以降入学生用

学校番号	325

令和５年度　地域科

教科	地域	科目	生活福祉	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・本校がめざす地域社会を支える人づくりを目標に、教科横断的な学習を踏まえながら地域とのつながり、人との出会い、多様な学びを主体的に実践し、学んでいく教科です。
・講演やワークショップ、訪問交流や実習など必ず出席し積極的に学びましょう。
・プリントや作業シートを必ず提出し、保管しましょう。
・個人やグループで作成する課題が授業内で終わらない場合は家庭学習などを計画的に行ってください。
・他者の発表などの記録も学びの一環のため、記録を必ずとりましょう。
・制作物、プレゼン発表などは期日を守りましょう。

2　学習の到達目標

法律や制度とともに、地域の現状を知り、当事者支援について理解する。
関わる諸課題について、多面的多角的に考察し、解決に向けてコミュニケーションをはかり、協働して提案することができる。
共生社会の実現を視野に、特に知的障がい者や子ども支援に関わる諸課題をふまえて、実習や演習に主体的に参画する。

・地域の人や社会資源を支える専門職の方から講演や実習で実態を学びます。
・地域で実践するために、コースで協働しコミュニケーション力を養い、社会と関わる力を身に付けます。
・施設交流や地域の人たちとの交流を重ねて、主体的に表現し提案し実践します。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	法律や制度、社会や地域での現状を知り、当事者支援の目標や課題を理解する。学んだことをレポートや課題作成で表現する技能を身に付けている。	目標や課題に対し、疑問や関連項目に視野を広げて多面的多角的に考察したことを表現できる。グループで目標や課題にたいして協働して探究することができる。	講演や実習・演習・交流など積極的に参加し、そこで学んだことをふまえて主体的に目標や課題に対して提案することができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	法制度と実態	○法律や制度、地域の実態を知る 個人ワーク、講演、グループワーク、地域資源	a:学習内容が記録できている 講演内容を整理し記録できている b:学習内容に対し、多面的多角的に考察できている。グループで協働し考察できている	記録	考察レポート、ツール	
	施設実習	○当事者に出会う、地域に出会う 施設交流、報告会、ワークショップ、レクリエーション(余暇活動)	b: 報告内容が多面的多角的に考察できている。グループで協働し考察できている c:交流やレクに積極的に参加し、ふりかえりレポートで目標達成や過程をふまえて提案や次の目標をたてることができている。		考察レポート、プレゼン	ふりかえりレポート
2	地域への提案	○地域への資源の提案 施設実習、報告会、 地域支援の提案	a: 今までの学習内容をふまえて作業内容を記録している。実習内容を理解して記録している。 b: 実習を多面的多角的に考察できている。グループで協働し支援の提案ができている。	記録	考察レポート、ツール	
	提案と評価	○提案プレゼン、評価 作成、提案プレゼン、フィードバック	b:グループで協働し考察をふまえてプレゼンができている。他者のプレゼンに対し考察ができている。 c: プレゼンに積極的に参加し、主体的に提案ができている。他者の評価に関心をもって次の目標をたてることができている。		考察レポート、プレゼン	ふりかえりレポート
3	子ども支援	○子どもの育ち支援、作成実習 個人ワーク、個人製作、グループワーク	a: 学習内容を理解して記録できている。作成過程で表現する技能をつけている。 b: 学習内容に対し、多面的多角的に考察できている。グループで協働し考察できている	記録	考察レポート	

※令和４年度以降入学生用

	子ども支援	○プレゼン 地域活動のまとめ	b: 考察をふまえて探求型の作品プレゼンができている。他者のプレゼンに対し考察ができている。 c:プレゼンや活動まとめに積極的に参加し、1年間学んだことをふまえて主体的にまとめ、社会と関わる力において課題を設定できている。		考察レポート、プレゼン	ふりかえりレポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度